

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立中川副小中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	86.6%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	86.7%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	93.3%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、 新たな考え方に気付いたりすることができている	86.7%	84.9%

佐賀市では、子どもの **well-being** の実現という目標のもと、子どもの主体性を伸ばすために「自律：自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力」「尊重：対立やジレンマを乗り越え、合意形成する力」「創造：新しい価値を生み出力」の 3 つの力を育むことを大切にしています。(※詳細は「佐賀市学校教育ビジョン 2025」を検索されてください。) この佐賀市学校教育ビジョンに関連する上記の調査 4 項目について、肯定的な回答をした児童はほぼ全国平均と同等かそれよりも高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段 1 日当たりどれくらいの 時間勉強していますか。「3 時間以上」	13.3%	12.1%
「2 時間以上、3 時間より少ない」	20.0%	12.8%
「1 時間以上、2 時間より少ない」	20.0%	29.1%
「30 分以上、1 時間より少ない」	40.0%	27.4%
「30 分より少ない」	0%	12.9%
「全くしない」	6.7%	5.7%

家庭学習については、目安となる時間を「10 分×学年+10」で示しています。質問調査からは、「家庭学習の時間」、「宿題以外の学習への意欲」、「家庭での ICT の利用」の項目について、目安の時間以上に勉強している児童と、家庭ではほとんどしていないという二極化がみられました。

(2)改善に向けての取り組み

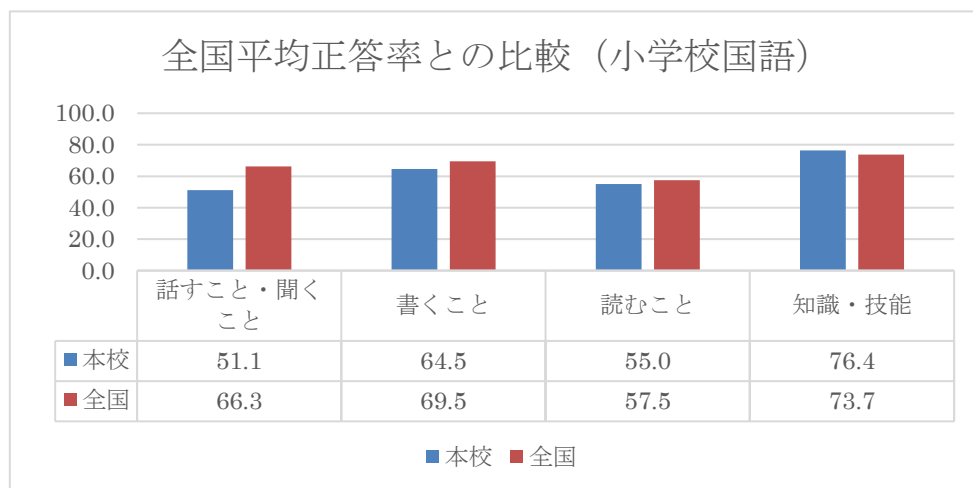
【学校では】「自律」、「尊重」、「創造」の力を育むために

- 学校目標「気付き、考え、実行する子どもの育成」に即し、他者と協働しながら主体的に学び続ける児童を育成するための授業実践を行っています。
- 子どもの自己肯定感を高めるために、「きらりプロジェクト」という、職員が子どもの活躍の場をつくり、そのがんばりを認めほめていく取組を継続しています。また、月 1 回の心のアンケートや毎学期の児童との面談、年 2 回の QU テスト等を活用し、子どもの気持ちに寄り添うよう努めています。
- 全職員で、子どもたちが主体的に学ぶための家庭学習の内容や取り組みせ方について研修を行い、授業改善と家庭学習の連携、読書の習慣化を目指しています。

【ご家庭では】

- 佐賀県教育委員会の合言葉は「ほめるから、はじめる。はじまる。」です。お子さんが困っているときには、保護者や教員がともに、伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 4 月に各家庭にお配りしました、佐賀県教育委員会の「家庭学習の手引き」をご覧ください、お子様と「家庭学習の習慣化の 4 つのススメ」について話し合い、家族みんなで実践しましょう。

2 国 語



(1) 結 果

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」は、全国平均正答率を下回っていますが、「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率は全国平均よりも低くなっており、問題に前向きに取り組んでいること分かりました。ただし、「漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題においてのみ、他の問題に比べ、無回答率が全国平均よりも高くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が 2.7 ポイント上回りました。一方で、「話すこと・聞くこと」が 5.2 ポイント、「書くこと」が 5.0 ポイント、「読むこと」の領域は 2.5 ポイント下回りました。これらのことから、身に付けた知識・技能を生かし、自分の考えをまとめ表現する(話す、書く)ことに課題があると考えられます。そして、学んだ漢字や語彙を使って、自分の考えを自分の言葉で伝える経験を増やすことが思考・表現する力を伸ばすことにつながると捉えています。また、質問調査において「授業以外に読書を全くしない」という児童が 53.3%で全国平均の 29.2%を大きく上回っており、上述した「漢字を文の中で正しく使う」力を付ける上で、読書を習慣化していくことが望ましいと考えられます。

(3) 学力向上のための取り組み

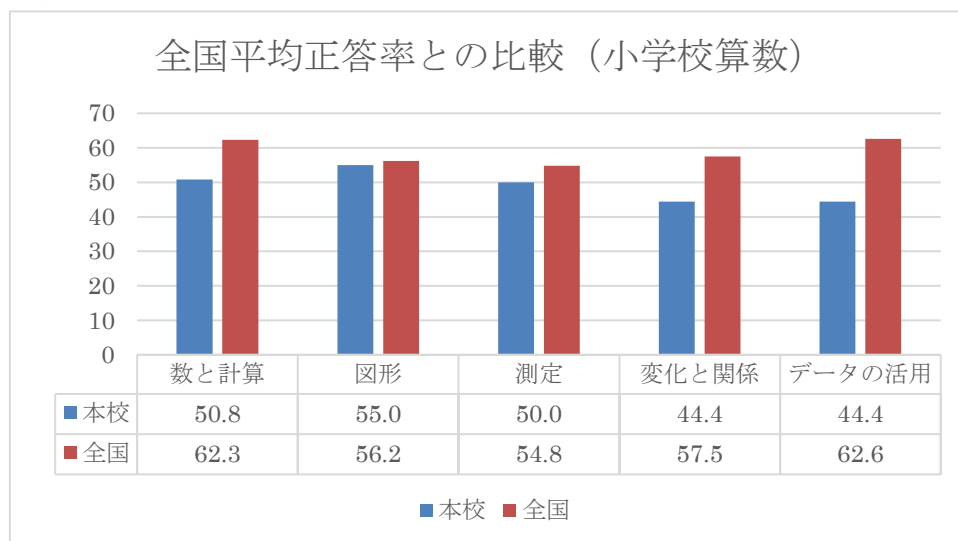
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、教師は児童の発言を他の児童につなげる工夫をし、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるように授業改善をします。
- どの授業においても、学習の最後には、「ふりかえり」の場面を設定し、表現の場を増やすとともに、自分の学びを次に生かすことができるように、継続して取り組ませます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることにもつながります。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 算数(数学)



(1) 結果

「図形」の領域については、ほぼ全国平均と同等であり、その他の領域は、全国平均をやや下回っています。特に、「変化と関係」と「データの活用」の領域において、全国平均より 10 ポイント以上下回っています。また、問題形式では、「記述式」での正答率が特に、全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、台形の意味や性質、角の大きさについて理解しているか（「図形」領域）、という問題において、正答率が全国平均を上回っていました。一方、目的に応じて適切なグラフを選択する、表から、条件に合った項目を選ぶことができるか（「データの活用」領域）という問題の正答率が全国平均を下回っていました。今後、資料やデータを比較する活動を通して、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるようにすることが重要であると捉えています。また、調査の終盤になるほど、無回答率が高くなっていたことから、児童の中に、時間内に全ての問題に取り組めなかった児童がいたことが推測されます。

(3) 学力向上のための取り組み

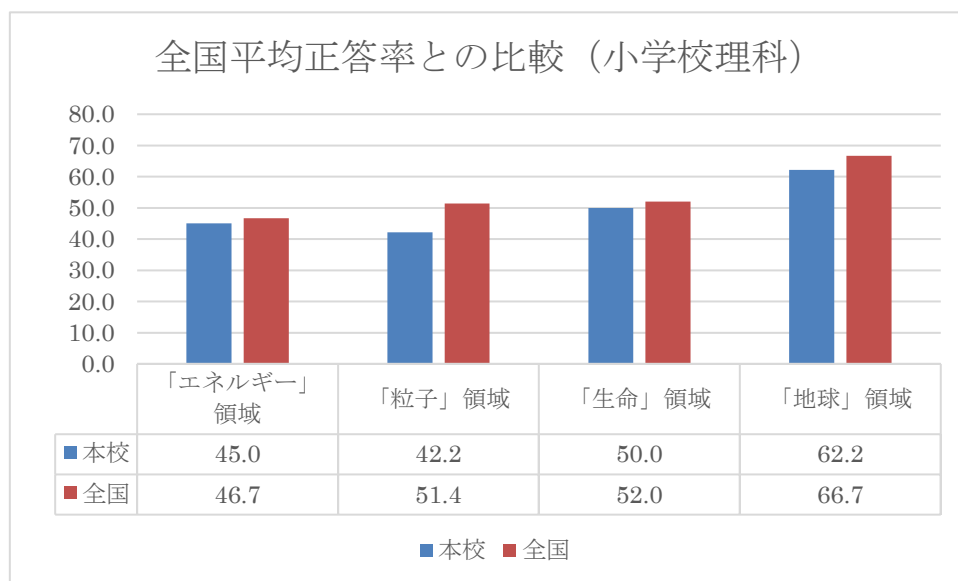
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を関連付けるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、授業の中で、ペアやグループで話し合う活動を取り入れています。そして、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。また、復習の場面において、個別の能力に応じた課題に取り組ませたいと考えます。

【ご家庭では】

- 低学年の時から、足し算、引き算、かけ算の九九などに繰り返し取り組むことが、計算力の向上につながります。家庭学習ではタブレットで前の単元、学年に戻って学習することが可能ですので、ぜひご活用ください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。「料理で重さ」「買い物で暗算」など、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。授業との関連を家庭生活の中から見つけたり、自分で問題をつくったりして、自学ノートにまとめていくことも有効です。

4 理科



(1) 結果

「エネルギー」及び「生命」の領域は、ほぼ全国平均と同等の結果でした。一方、「粒子」を柱とする領域について 9.2 ポイント全国平均より低くなっています。また、どの問題においても無回答がほとんどなく、問題に前向きに取り組んでいること分かりました。問題形式「短答式」、「記述式」において、平均正答率が全校よりも高くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、電磁石の強さが巻き数によって変わることの知識が身に付いているかをみる問題（「エネルギー」領域）、発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし表現する問題（「生命」領域）の正答率が全国平均正答率を約 10 ポイント上回っていました。一方、「粒子」領域の身の回りの金属の性質についての知識が身に付いているかをどうか、「生命」領域の顕微鏡の操作し、適切な像にするための技術が身に付いているかどうかをみる問題は全国平均正答率を 10 ポイント以上、下回っていました。これらの結果から領域によつての、学習の定着に差があり、日々の授業で、実験の方法や結果を説明する、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。持ち帰った理科の実験キットを使ってもう一度自分で実験し、その結果をまとめたりすると理解が深まり、学習の定着につながります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。